

# 医科・歯科連携の実際

## 第5回

# 飯南町および飯南病院から 総合的ケアモデルとして情報発信を

三上隆浩

島根県・飯南町立飯南病院副院長（歯科口腔外科）

### ■ 飯南町の紹介と飯南病院

平成17年1月1日、頓原町と赤来町の合併が実現し、「飯南町」が誕生した。飯南町は島根県中南部にあり、広島県との県境、中国山地の脊梁部に位置し、周囲を1,000m前後の琴引山や大万木山などに囲まれ、平坦地の標高が約450mの県下でも代表的な高原地帯である。

人口は約5,500人、高齢化率38.3%、2010年度出生数は30人、死亡者数121人の過疎化の進む島根県内でも一段と少子高齢化の進んだ町である。全2,127世帯のうち、独居世帯数は313世帯、高齢者のみ世帯数は315世帯となっている。

飯南病院は飯南町内を走る国道54号線沿いにあり、この頓原地区に公立・民間の諸施設が集中している。いわゆる施設系サービスの整備状況はかなり進んでおり、在宅・施設介護を支える飯南病院の役割は年々増している。

### ■ 飯南町生きがい村と飯南病院

飯南病院は前身の診療所時代を含め、昨年設立50周年を迎えた。内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、眼科、心療内科、歯科口腔外科、リハビリテーション科を標榜し、医科4名（内科系3名・外科系1名）、歯科口腔外科1名の常勤医師とその他の非常勤医師で

運営している。一般病床は48床で、訪問看護ステーションを併設している。

平成22年4月に「飯南町生きがい村推進センター」が発足した。病院・診療所を核として、隣接する保健福祉センター（保健福祉課、社会福祉事務所）を一体的に捉え、保健、医療、介護、福祉をより地域に密着した形で展開していこうというものである。

このなかで飯南病院は、「住民の皆様にあいさつされ信頼される医療機関を目指します」を基本理念とし、生きがい村推進センターにおける当面の4本柱として、

- ① 救急医療の維持・充実を図る
  - ② 在宅療養支援の充実に努める
  - ③ リハビリテーション部門の充実を図る
  - ④ 予防医療と保健部門の柱（最重点課題）を定めて推進すること
- を具体的に定めている。

### ■ 歯科口腔外科と包括的口腔ケア

飯南病院の歯科衛生士業務から、当科での主な役割についてまとめた（表）。

一般歯科開業医院と同様に、通常の外来業務が多くを占めるが、その他には、院内・在宅・施設での口腔ケアおよび、訪問歯科診療、健診関係、そして健康教室や介護予防事業など多岐にわたっている。

「話すこと・食べること・呼吸をすること」は口腔

表 当院の歯科衛生士業務

①外来業務	外来業務	月～金	
②口腔ケア	病棟口腔ケア	月・火・水	新規入院患者の口腔内チェックと口腔ケア
	訪問診療・口腔ケア	火・水・木	訪問診療に同行・単独訪問で口腔ケア
	介護保険施設訪問	火・水	町内2か所の特別養護老人ホームに週1回訪問口腔ケアと助言
③健診・健診業務	乳幼児検診	年9回	歯科健診（保護者健診も同時試行）・フッ化物塗布
	特定健診	年13回	特定健診時に歯科・口腔がん検診を同時開催
	職場歯科健診	年2～3回	職場健診時に同時開催
	飯南病院検診 (人間ドック・その他)	毎週3回	歯科外来において一般診療と同時進行
	保育所歯科健診	年2回	町内3保育所で春、秋2回実施
	学校歯科健診	年2回	町内2小学校、2中学校で春、秋2回実施・ブラッシング指導
④健康教室・事業	糖尿病教室	年4回	スタッフとして参加・ミニ講座
	保育所健康教室	年1回	町内4保育所（子どもと親）
	学校ブラッシング指導	年2回	学校歯科健診後に指導・中学校は昼休み、小学校は授業時間を利用
	育児相談	年4回	ミニ講座・個別相談
	子育て食講座	年1回	ミニ講座・調理実習
	介護予防事業	年16回	1回1時間程度・72歳塾

の三大機能であり、生きていくために必要不可欠な機能であるだけでなく、「人が人らしく生きる」ために大変重要な役割を担っている。当科では「包括的口腔ケア」の実践をはじめ、これらに関わるすべての局面において、われわれの責務があると考えている。

歯科診療所時代からの一般歯科診療と歯科保健活動、病院機能を背景とした口腔外科の対応の拡大、そして「包括的口腔ケア」の実践は、飯南町保健福祉センターとの連携で町全体へと発信している。

病院全体が多職種連携で取り組む摂食・嚥下リハビリテーションでは、嚥下検査や口腔ケア用品のカスタマイズ、嚥下困難食の地域内標準化などに関わっている。また、訪問歯科診療を通じて、在宅や施設での生活をサポートしている。

口腔外科症例やいわゆる有病高齢者における外科処置においては、在宅・施設を問わず多くの方が当院内科医が主治医であることから、内科医の協力の下、病院機能を活用して入院管理下で対応している。

## ■ 口腔機能維持管理

飯南町内には2か所の特別養護老人ホームをはじめ、多くの介護保険施設がある。特別養護老人ホーム

においては、定期的訪問による口腔管理と助言により、「口腔機能維持管理加算」を算定し、口腔ケアチームの自発的活動を支援している。医療機関の立場では、要受診患者の把握と的確な対応が可能となり、結果のひとつとして各施設の稼働率向上、すなわち、入院の減少となって現れてきている。各施設の嘱託医師は当院の内科医師であることから、医科・歯科連携によるバックアップにより、歯科も含めた全人的な健康管理が可能となっている。

病院・在宅・施設間の連携関係の構築により、地域内でのシームレスな連携を目指している。各施設への関わりとして、定期的に「スキルアップセミナー」を開催している。アセスメントシートの提示と、具体的なアセスメント基準の共有化によって、レベルアップを図っている。定期の訪問時にはすべての介護職員が交代で同行し、入所者の方々の口腔状態の把握や対応について協議しながらラウンドしている。

## ■ 口腔疾患と全身の関係

平成17年度モデル事業「介護度悪化予防に関する調査及び支援事業」においても、日頃からの歯科治療による口腔環境の維持・向上が重要であることがわかっ

ている。また、8020の達成や残存歯数、歯周疾患の状態など、口腔状態と医科医療費の関連について多くの報告がなされている。近年、特定疾患患者のトータルケアの一員として関わるが多くなっている。地域包括支援センターと兼務する飯南病院地域医療部、訪問看護ステーションやリハビリテーション室、歯科口腔外科などの病院スタッフと保健福祉課や福祉事務所が連携して対応することが可能となっている。

飯南町では、特定健診時に対象外の年齢層を加え、すべての住民を対象に、歯科口腔がん検診を実施し「飯南町住民健診」としている。同時に、町の節目健診としての人間ドック、町内企業の検診など、院内で実施するすべての検診で、歯科口腔がん検診を無料で提供している。また、保健福祉課の事業として、飯南町建設業組合・飯南町役場の職場検診においても同様に対応している。特定健診においては、すべての健診データと歯科口腔がん健診データをリンクさせて分析し、保健福祉課・病院職員に加え、管轄保健所・国保連合会からも参加を得て、検討会を開催している。

分析結果から、高脂血症グループは他の疾患グループより年齢層が低く、なおかつ歯周疾患罹患率が高い傾向にあり、早期からの歯周疾患の進行から生活習慣病の発症とつながるモデルの存在も考えられ、乳幼児期からの歯科教育をスタートしたすべてのライフステージにまたがる生活習慣病予防対策が重要と考えている。

「子どもの生活習慣病対策ネットワーク事業」では、小児の生活習慣病においても、口腔環境に影響されることがわかっている。乳歯列から永久歯列の完成までの小児期における口腔環境の変化から、離乳や食事について説明している。生活習慣病対策は、生まれてすぐに始まっているという認識で取り組んでいる。

糖尿病に関する知識の普及・啓発を図るとともに、合併症を防ぎ、QOLの低下を予防することを目的として糖尿病療養支援チームを立ち上げ、病院内の関係多職種と保健福祉課の保健師も参加している。

また、運動・栄養・口腔をテーマに、年3回の糖尿病教室の企画・開催や、地域の関連行事への参加・協力を行っている。

## 図1 介護予防事業

①日々の生活に浸透する介護予防

- ・日々の買い物など生活に密着した支援
- ・個々の余暇活動に併せた支援

②飯南町独自の風土・環境を活かした介護予防

- ・森林セラピー基地「もりのす」をはじめとした、独自の設備を利用した支援
- ・来島診療所などを組み入れた園芸療法を用いた支援

③必要に合わせて専門職が適切にかかわる介護予防

- ・保健師を中心とした総合的な支援
- ・運動、栄養、口腔に関する専門職がかかわる支援

## ■ 介護保険と介護予防

飯南町における介護保険の新規認定者の申請理由を検討すると、高齢化による身体機能低下・認知症・うつ病・脳血管疾患による新規認定者が多い傾向にある。独居世帯や高齢者のみの世帯も多く、食生活の問題、住宅等の段差問題、身体機能の問題が予測される。

介護予防事業は、今後進展していく高齢化社会においてますます重要となってくると考えられる。制度の変遷に伴い、現場での事業形態も左右されてきたが、これからは飯南町の風土・環境を生かし、日々の生活に浸透する介護予防事業を推進していく。また、医療現場で園芸療法を取り入れてきた経緯や、森林セラピー事業を推進していることから、これらの社会資源を活用した取り組みも検討している。そこに専門職が適切に関わることが効果的であると考えている(図1)。

通所型介護予防事業では、運動・栄養・口腔の三要素をバランスよく提供し、歯科的には、食支援を通じて「うつ・認知症」にも関わっている(図2)。また、還暦後の初めての年男・年女の皆さんが同窓会気分楽しく過ごす「72歳塾」(兵庫県香美町の中田和明先生が実施されている「8020運動」を参考にした取り組み)は、効果的な介護予防事業となっている。同級生だけの集まりで、参加率も高く好評である。

## ■ 学校歯科保健

町内の中学校では、学校歯科健診を春と秋の年2回

図2 介護保険施設での口腔機能維持管理

- 口腔機能維持管理加算  
定期的口腔内管理と助言  
介護保険施設の稼働率向上：入院の減少  
施設職員の知識および意欲の向上
- 訪問診療と病院歯科受診  
要受診患者の把握と的確な対応
- 医科・歯科連携によるバックアップ  
歯科も含めた全人的な健康管理  
全身状態の把握と歯科処置時の術中・術後の管理
- 地域内でのシームレスな連携体制の構築  
病院・在宅・施設間の連携関係の構築



・年2回の学校歯科健診時に実施  
・春は1年生、秋は3年生が対象

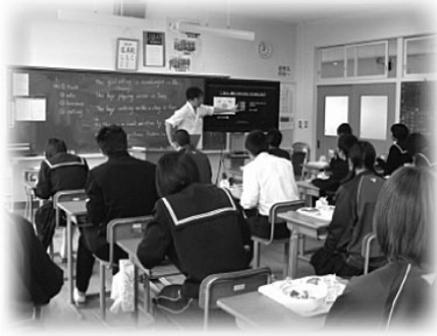


写真 赤来中学校でのランチョンセミナー

行っている。その際に、給食時間を有効活用してランチョンセミナーを開催している（写真）。春は1年生、秋は3年生を対象に行っている。セミナー終了後に歯科衛生士が、毎日10名程度を対象に、やはり昼休みの時間を利用してブラッシング指導を行っている。

### ■ 歯科医師臨床研修

当院は島根大学の「研修協力施設」である。1週間と短期間の限られた時間のなかで研修医に伝えること

は、「地域包括医療・ケア」と、そのなかで「歯科医師」というライセンスを有して関わることのできるこの可能性についてである。そのため、いわゆる一般歯科診療にはタッチせず、歯を削ることも義歯をつくることも体験しない。つまり、飯南病院、飯南町保健福祉課および地域包括支援センターの関係多職種の協力と連携のもとに成り立っているのである。このような受け入れ体制から、歯科医師としての活躍の場が地域で無限に広がっていることを実感してほしいと願っている（図3）。

図3 当院の歯科医師臨床研修

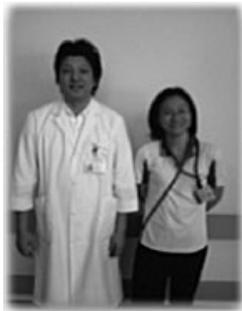
平成18年から、島根大学の研修協力施設として、研修歯科医を各1週間受け入れ開始

島根大学歯科医師臨床研修 飯南町立飯南病院（地域医療）

研修日程：平成18年9月12日（火）～9月15日（金）+10月26日（木）

研修医氏名：K・W先生

	予定	研修場所	担当者
9月12日(火)	AM 8:30～ オリエンテーション 9:30～ 特定高齢者地域支援事業 PM 13:00～ 下町老人クラブ婦人部健康教室 14:00～ 訪問看護 16:00～ サービス担当者会議	歯科口腔外科外来 保健福祉センター 下町（頓原集会所） 雲南市 保健福祉センター	歯科医師 社会福祉士 保健師 看護師 ケアマネジャー
9月13日(水)	AM 9:00～ 歯科口腔外科外来見学 10:00～ 「一歩の会」 PM 13:00～ 病棟口腔ケア（歯科医師）	歯科口腔外科外来 保健福祉センター 病棟	歯科医師 保健師 歯科医師
9月14日(木)	AM 9:00～ 顎顔面補綴（島大病院） 終了後：飯南町へ PM 13:00～ 訪問歯科診療・施設訪問 16:00～ 歯科口腔外科外来見学	島大歯科口腔外科外来 町内・各施設 歯科口腔外科外来	歯科医師 歯科医師
9月15日(金)	AM 9:00～ 地域医療部 退院後訪問 PM 12:15～ 管理栄養士病棟訪問 13:30～ 内科医 リハ・褥瘡カンファレンス 栄養評価 15:00～ リハビリテーション室実習	飯南町内 病棟 病棟ナースステーション 病棟 リハビリテーション室	看護師 管理栄養士 PT 管理栄養士 PT
10月26日(木)	AM 10:15～ 受付 10:30～ オリエンテーション 11:30～12:15 授業 2年生または4年生 PM 13:08～14:30 授業 6年生 14:30～15:40 提案発表 講評 15:40～ 閉会	仁多郡奥出雲町 町立阿井小学校	歯科医師



その一方で、協力してくれるそれぞれの職種の仲間は、その専門分野を研修医に紹介し、たとえば、在宅訪問の前のオリエンテーション、訪問先での口腔チェック、健康教室での口腔に関するミニ講演の依頼、介護予防教室への参加、歯科用チェアユニットへの移乗方法など、実際に体験できるようにそれぞれ工夫している。

結果的に、この歯科医師臨床研修を通じて各専門職が自然と歯科と関わり、口腔機能維持・向上の重要性を認識し、日常業務の中でも関連づけて行動してくれ

るようになっている。

### ■ 病院歯科経営

私が就任する前の歯科診療所では、歯科医師1名と2名の歯科衛生士の体制で診療していた。その後、平成10年に歯科保健センターを併設し、12年には病院の移転新築に伴い、歯科口腔外科として病院歯科診療に移行した。そして、平成17年の町村合併に伴い飯南病院に名称変更し、同時に私は医療技術部長を併任、18

年には保健福祉センター次長併任となった。現在は、飯南病院副院長と「生きがい村推進センター」の副センター長を兼任している。

業務拡大に伴い、歯科医師・歯科衛生士の増員と施設整備に取り組んでいる。歯科保健センターや保健福祉課との連携、病院内併設や生きがい村推進センターの設置など、歯科を含めた連携体制の充実に伴って、診療実績は順調に推移していると考えている。

いわゆる口腔外科症例については、病院の体制から、新規の悪性腫瘍症例は大学病院への紹介としているが、ターミナルケアは、内科医・地域医療部・訪問看護ステーション等と連携して受け入れている。良性腫瘍、嚢胞性疾患、炎症、外傷、全身疾患・状態に配慮が必要な抜歯、その他の症例については、当科で対応しているが、入院症例は今のところ内科医が主治医となり、歯科口腔外科で「外来処置」を行う形を取っている。本年度からは歯科入院として算定となり、歯科口腔外科としての診療実績は、数字の上ではさらに増加することになる。

今後は、在宅や施設への訪問診療や口腔機能向上プログラムの提供、病院内での口腔ケア体制の強化、保健福祉課事業の強化など、当科としての課題は多く、歯科医師・歯科衛生士ともさらに増員が必要と考えている。一方、各都道府県の行政機関においても、1名の歯科医師配置がないところもあり、複数配置の状況も、東京・大阪を除いてはほとんどない状況である。われわれ公的医療機関に勤務する歯科医師の責務としては、診療現場と平行して訪問診療や口腔機能向上プログラムの提供、病院内での口腔ケア体制の強化などを図っていく必要性はますます重要となってきている。

## ■ 地域や病院内での歯科への期待

近年、歯科を開設した他院の状況について紹介する。

A病院での歯科部門開設の目的は、

- ① 口腔ケアを通し、「高齢になっても障害を持っても人生を終えるまで口から安全に美味しく食べられることができる地域づくり」を目指す。

- ② 在宅診療を行っている患者様や、病院だけでなく市内の施設入所者の方々の口腔ケアを中心に機能を発揮する。
- ③ 病院内のNSTと連携し、地域NSTの構築にも中心的に関わる。
- ④ 病院内の感染症管理にも参加する。

B病院では高齢者症候群の観点からの総合的ケアとして、急性期医療に加え、生活に結実した総合的ケアが必要と考え、栄養、認知症、うつ、高次脳機能、ADL、感染、排泄など、地域全体での総合的ケアへ取り組む。また、口腔粘膜障害の重症化・嚥下機能障害の悪化を背景とした低栄養状態、廃用症候群に対応し、「口腔から全身の疾患を予防」「病院から地域への連携体制」「高齢者の虚弱防止と疾患の再発予防」に取り組んでいる。

こういった使命がわれわれ歯科に求められていることは大変光栄であると同時に、今後、全国のあらゆる医療機関・地域で必要不可欠な機能として整備されるように、飯南町および飯南病院がひとつのモデルとして情報発信を行っていきたいと思う。

## ■ まとめ

これらを踏まえつつ、飯南町では「お口から始める健康なまちづくり」をスローガンに取り組んでいる。これまでは、「お口から始める健康づくり」としていたが、われわれ医療関係者は、医療や健康づくりを通して、保健福祉課職員のみならず、すべての役場職員や地域住民の皆さんと一緒に「まちづくり」に取り組んでいると考えている。その一員として歯科関係者も参加している。

今後は、目に見える医業収支の改善はもちろん、地域での役割にひとつずつ対応していけば、必然的に歯科の役割は増していき、さらには数字に明示しにくい部分の評価もいただいて、国診協施設から「医科・歯科連携」をベースとした「歯科」の設置を推進していただきたいと思っている。